

術者の負担軽減を可能とする新しい医療システム

ライセンス契約を受けていただき 本発明の実用化を目指していただける企業様を求めます。

プロジェクタシステムを用いた手術支援システムの紹介です。

◆背景

これからの医療においてプロジェクタを用いた手術支援技術の導入が提案されています。あらかじめCTなどで撮影した医療画像を体表に投影することは、手術者に直感的に構造を把握させることを可能とし、術者の負担軽減につながることが期待されています。

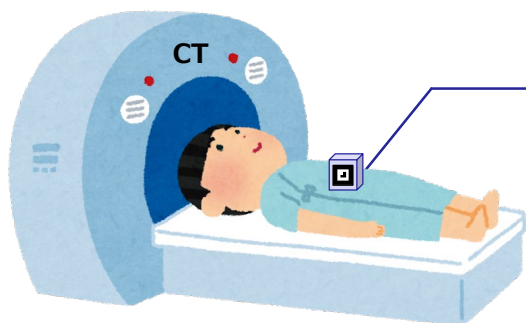
◆発明概要

発明者らは、全自動でプロジェクタと患者のレジストレーションを可能とする手術支援システムの開発に成功しました。

本発明は、簡便で視覚的な手術支援を可能とし、手技の高精度化、手術のミス低減、新しい治療法の開発につながることが期待されます。

◆本発明システムの流れ

- ①患者の体内構造は、事前にCTなどの3次元撮影装置で得る。
この際、本発明であるトラッカーを患者の体表において撮影を行う。



本発明「トラッカー」

CT等の画像診断装置で撮影できる素材で作製されたターゲット。トラッカー表面に自動検出できるように反射型マーカーが貼付してある。

◆特許情報

【特許番号】

特許第5987998号

【発明の名称】

手術支援システム、プロジェクタシステム、医療画像投影方法

【出願人】

国立大学法人千葉大学

【発明者】

中口 俊哉

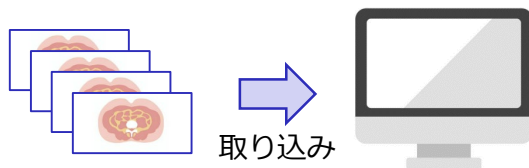
◆応用が期待される分野

- ・手術
- ・検査

◆可能な連携形態

- ・実施許諾契約
- ・オプション契約(技術検討のためのトライアル契約)
- ・共同研究

- ②CTで撮影した画像データをパソコンに取り込み、自動的にデータを処理する。



◆お問い合わせ先

千葉大学

学術研究・イノベーション推進機構

担当：知財・技術移転戦略部門

〒263-8522

千葉市稲毛区弥生町1-33

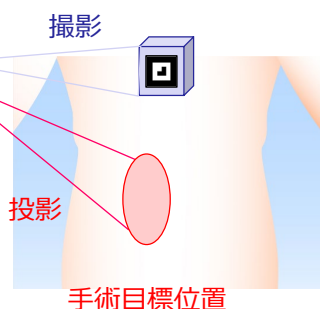
TEL:

043-290-3831

E-mail:

beo3566@office.chiba-u.jp

カメラ・プロジェクタ



- ③手術の際にトラッカーをCT撮影時と同じ体表面位置に置く。カメラでトラッカーを撮影すると治療目標位置が自動的に計算され、カメラにより治療目標位置が体表面に投影される。



CHIBA UNIVERSITY

